

事業所における自己評価結果(公表)

※児童発達支援

公表: 2024年 4月 1日

事業所名 みらいくらぶ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	86%	14%	・活動内容、今する事などの表示として、絵カードを取り入れてもよいかもしれない(トイレ、お茶タイムなど)	・検討いたします
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	86%	14%	・全職員が参加できる体制になっていないように思う	・シフト制の為、限られた職員にならないよう、シフトに工夫しながら全職員が参加できるようにしていきます
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	57%	43%	・前年度はHPにて公開していたが、無くなったため、今後は会報や施設内に掲示する ・HUGでの公開だけでなく、HPを作成し、外部の方も見れるようになると良い	・新しくHPの作成を検討します
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	43%	57%	・第三者による外部評価の機会が無いように思う ・意見があったときは行っている	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	86%	14%	・研修を行うことは出来ているが、定期的には行っていない ・あまりできていない。時間を見つけて今後行っていく	・研修の機会を増やしていきます
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	12	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	・その日に職員で話し合い、決めている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・児童にあった支援、活動を考え、行っている	・今後も継続していきます	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
課	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	・毎日朝礼を行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	・朝礼の際に前日の振り返りを行っている ・終了時にはすでに退社している職員もいるが、後日業務日報で確認できる	・今後も継続していきます
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・毎日日報を作成している ・サービス提供記録にて行っている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	71%	29%	・出来ていない	・相談支援事業所主催で開催があれば参加したい
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	・ほつぷと情報共有している	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	29%	43%	・医療的ケアを必要とする利用者がいない	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	29%	43%	・医療的ケアを必要とする利用者がいない	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・保護者を通して行っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	57%	43%	・連携を取ることはあるが、研修等の機会は少ない ・相談支援の方々と情報共有の場が少ない	・研修等の機会を増やしていきます
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	43%	57%	・公園などの外出支援の際もそこまで関わりがないため、もう少し増やしても良いと思う ・コロナが落ち着いてきたが、まだない	・機会があれば参加致します
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加している	71%	29%	・自立支援協議会へは参加しているが、地域の子供、子育て協議会へは参加していない ・出来ていない	・今後も参加できる様、機会を作っていきます
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	・契約時に行っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	・各家庭で何かあったときは対応している	・今後も継続していく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	86%	14%	・保護者会は開催したが、保護者同士の連携の支援は出来ていない	・今後も定期的に行えるよう、機会を作ります
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	・毎月活動記録を配信している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	14%	86%	・コロナ発生以降、地域住民との接触をひかえている ・地域の方々との交流が少ない	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	86%	14%	・奇数月に訓練を行っている ・マニュアルを職員間では共有できているが、保護者に対しては一部伝えきれていないことがある	・今後も訓練を継続していきます ・保護者にも伝えられるよう、機会を作ります
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	・奇数月に訓練を行っている	・今後も継続していきます
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	86%	14%		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	86%	14%	・保護者の確認を取りながら対応している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	86%	14%	・事例集は作成できていない	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	・現在身体拘束が必要な児童がいない ・必要な場合は記入する	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。